

GOTO TSUSHIN

発行/滋賀医科大学同窓会「湖医会」
〒520-2192大津市瀬田月輪町滋賀医科大学内
TEL 077-548-2074 FAX 077-548-2094
e-mail:koikai@koikai.org
http://www.koikai.org

湖都通信 52号

Since 1987 Editor Takehiro Inui,
Co-editor Takashi Kadowaki,
印刷/昌栄印刷 2006.10.1

総会 2006年度 「バ」案内

日時：2006年10月28日（土）
16:00~17:00
場所：基礎講義実習棟2階 B講義室

出欠・委任は
返信用紙で！
10月25日（水）必着

会員サービスの向上をめざして！

キャンパスの樹々も日々秋色を帯びて参りました。会員の皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、滋賀医科大学同窓会『湖医会』は、現在正会員（卒業生）が3000名を越す大所帯ですが、創立以来25年の時を経て、一つの大きな曲がり角に来ております。

第一に、役員組織が肥大化しその多くがほとんど会の運営に関わりを持たない状態であり、組織のスリム化と通風化が課題となっております。これは、法の改正によってこれまで困難であった「社団法人化」20年度から届出で可能となる見込みなので、それに合わせた組織の形を検討していく方針です。

第二には、会員サービスの質の転換であり、第3は会費納入率の低迷化傾向（8ページ「会費納入状況」参照）の打開ですが、これらは密接に関係しています。

第3の点については、時代の流れもあり母校愛や同窓会への帰属意識が薄れていることが大きく関わっているものと思われ、これらの問題について幹事会では討議を重ねて次の柱を立て、総会に諮ることになりました。

- ◇ (1) 学生準会員も正会員とし（ただし会費は不要、入学時から一緒に母校のことを考えて行く）
- ◇ (2) 会員のニーズの変化に対応して、サービスの向上を図る。「会員サービスの向上」が今総会の最も大きな提案となります。既に数ヶ月前から事前調査で、Eメールによるアイデアを募集していくつかの提案を頂き、当面「Eメールや郵便にて各種情報をお知らせするサービス」を試行しています。現時点では、
 - ◇ 同期会・総会などの各種会合の案内
 - ◇ 大学医局、卒業生の開業病・医院その他からの求人情報（急な代診なども含む）
 - ◇ 母校の近況
 - ◇ 会員や恩師（特別会員など）の異動・逝去の情報
 などの「配信サービス」を計画しております。

このように今後「湖医会」からの情報提供は、Eメールを中心にならっていくと思われ、これまでの試行メールを一度もご覧になっていない方は、同封の『返信用紙』にて是非ご登録手続きをしてみてください。一人でも多くの会員に配信していきたいと思っております。

これらの課題についてご検討いただきたく、総会へのご参加を広く呼びかける次第です。

なお、「湖医会」事務室はしゃくなげ会の部屋に間借りしており、記録保存も難しいほど手狭です。卒業生やこれから正会員となる学生諸君との日常的な懇談を可能にし、幹部会議や顧客との対応もできる、交流の場としての「湖医会室」をぜひ頂きたいという強い要望を大学側に出しております。

良い結果が得られますよう、引き続き関係部署のご理解をこの場を借りて会員3000名よりお願いする次第です。

会則改正

会費の減額も

今総会では、会員サービスの向上をめざす新しい活動が、よりスピーディに、よりスムーズに行えるよう、いくつかの会則の見直しも提案されます。また会費についても入会金・看護学科卒業生の年会費の減額も検討される湖都通信のなっております。（8ページ参照）

第5回

湖医会賞

受賞者決定！！

臨床・福祉領域/その他の活動領域

岩本あづさ氏

研究領域

西村絵美氏

10月28日は、総会に先立ち授与式・受賞記念講演が行われますので、多数ご参加ください。

（関連記事2～5ページ）

総会出欠・委任状はメールでも受け付けます

koikai@koikai.org

主な記事

『湖医会賞』受賞者決定！
..... 2～5
看護学科交流懇談会..... 6

2006年度総会資料..... 7～8
学生のページ / 若鮎祭..... 9
LITTLE WINDOW 10

湖医会賞

第5回

選考委員会報告

◆総評

今回は、研究領域および臨床・福祉領域とその他の活動領域に2名の候補者の推薦がありました。今回の候補者は2人も女性であり、このことは現在女子学生が半数を占める傾向にある滋賀医大を象徴するようでもありました。

一昨年より推薦者が選考委員会に赴き選考理由を述べるかたちをとっていますが、出席された推薦者はたいへん熱心に推薦理由を述べられました。また勤務の都合で出席できなかった推薦者も電話口で待機し、すぐに質疑応答できる態勢をとっていただきました。また本人から提出された資料のビデオ映像も流され、選考委員会は進行していきま

ました。西村氏は、自身が幼少時にアトピー性皮膚炎だったこともあり、皮膚科に入学。またその研究チームも分子遺伝学教室の発生研究から始まり、「白髪のカニズム」に進んでいったのも、西村氏ならで

はの着眼点だと賞賛されました。

一方、岩本氏とはいえ、彼女ほど「地道に活躍する人」を讃えよつという『湖医会賞』本来の趣旨に相応しい人はいないでしょう。卒業後、多くの開発途上国で医療支援活動に取り組まれ、現在はラオスにて活躍中です。体力的に大変な環境の下奔走されている姿を想像し、選考委員は異口同音に「小柄で童顔な顔立ちの彼女のどこか？」と感心することしきりでした。また、どんな講演が聞けるのか今から楽しみだとも話されました。

以上、様々な検討の結果、例年より早々と、しかも満場致で2名とも申し分けなく『湖医会賞』受賞者にふさわしいという結論に達し、後日行われた幹事会でも承認され、『湖医会賞』受賞者に正式に決定しました。

選考委員は次の通り(敬称略)

委員長:渡辺一良(会長)

委員:野崎光洋・島田司巳

(以上特別会員)

:埜田和史

(前副会長)

:茶野徳宏

(副会長)



第5回『湖医会賞』授与式及び受賞記念講演会

日程:2006年10月28日(土)

場所:基礎講義実習棟2階 B講義室

<授与式>

13:30~ 賞状・副賞授与

<受賞記念講演会>

14:00~ 岩本あづさ氏 講演

演題:滋賀からラオスへ

—国際小児保健の世界—

14:45~ 西村栄美氏 講演

演題:幹細胞とニッチを探して

◆選考理由

2名の選考理由は次の通りです。

『研究領域』での授賞が決まった西村栄美氏(医14期生)は、皮膚科に所属しながら新しい挑戦として分子遺伝学教室へ出向いて始められた研究は、色素幹細胞の発見へとつながり、留学先のハーバード大学で

『白髪のカニズム』として結実した。その研究は独創的で世界最先端のものであり、研究業績として文句なしに素晴らしい。仕事や研究の環境など必ずしも好条件ではなかったであろう。しかし努力し、チャンスをもものにしたいという点で『湖医会賞』会員、とくに後輩への好例になる。『湖医会賞』は小さな賞であるかもしれないけれども、賞を授けるといふことは、同窓の皆が誇りに思いサポートしているといふことの証である。これが励みとなり、さらなる飛躍に繋がることを期待し、本賞を授与することに決定した。

岩本あづさ氏(医13期生)は『臨床・福祉領域』と『その他の領域』での授賞となった。

幼少時から大切に育てられたため『世界中の困っている人を助けたい』という夢を大人(医師)になっても持ち続け、日本国内にこだわらない世界的な広い視野に立つて活動している。日本での普通の生活からは思いつくこともないような地域での困難な仕事であるにもかかわらず、継続して取り組んで来たという意志の強さには心を打たれるものがあり、地道なチャレンジャー精神は評価に値する。また、現役学生が現地で行う医療活動も快く援助してくれている。『光の当たらないところで地道に活動する人に贈る』という湖医会賞の本来の趣旨を考えたとき、これ以上ひたたり当てる例はない。岩本氏の活動に3000余名の湖医会会員のサポートがあるといふことを感じてもらえれば幸いです。

第5回「湖医学会賞」を受賞して

『研究領域』

不都合は好都合

金沢大学がん研究所 幹細胞医学研究分野教授



西村栄美
(旧姓:川端)

(医14期生)

第5回「湖医学会賞」をいただくことになり、大変光栄に存じます。学生時代よりお世話になりました滋賀医大の諸先生方、同窓会の皆様、そして、推薦くださいました中島滋美先生に心より御礼申し上げます。このたび、授与式と講演で12年ぶりに母校を訪れる好機も頂き、懐かしい気持ちでいっぱいです。

今回の受賞理由として書かれていた項目のなかに、『仕事や研究の環境などというものは、必ずしも好条件とは限らないであろう。しかしチャンスと努力という点で、とくに後輩への好例になる』とありましたのを受けて、参考になるかどうかは分かりませんが、私なりに経験から学んだことを書いてみたいと思います。社会に出れば好条件ではないことというのは枚挙に暇がないと思いますが、悪条件と思えることも捉え方次第でチャンスに変わります。というのが私の印象です。私は子どもの頃にアトピー性皮膚炎に悩んだのがきっかけで、滋賀医大にご縁が出来ました。今から思えば杞憂だったのですが、『もし、一生治らなかつたらお嫁に行けな

いかも?』と子どもらしく悩みました。しかし、自分だけ運が悪いとは思いたくなくて、『何か意味があるはず、病気を研究して、良い治療法を見つけたらいいな』という漠然とした思いから始まり、研究に興味湧いてきたのですが、これは当時の自分にとってはとっておきの思いつきでした。近医で、滋賀医大の上原正己(名誉)教授がアトピー性皮膚炎をご専門にされていることを伺い、同じ関西ということもあって滋賀医大を受験しました。そう思っただけで入ったわりには、普通にサボることも覚えて学生生活をエンジョイしました。新入生の時も、「研究医」になりたいんですが、先輩に相談すると『職はないよ。臨床医だつて基礎の医者だつて研究するんだから。』と教えて頂くなど、卒業するまでに、多くの先生方が親切に進路相談にもつてくださいました。

卒業後の紆余曲折を簡単に振り返ってみますと、基礎の研究で免疫学の研究をして学位を取ることを想定し、京大皮膚科に入局。いざ大学院生として研究を開始するときは、皮膚の色素細胞の発生の研究をすることになり、分子遺伝学教室(西川伸一教授)に入門。研究に対して素人であったため、一年近くテーマが定まらず悪戦苦闘。なんとか学位研究を終えると、再生への興味も沸々と湧いてきて大学院の残りの半年ほどで幹細胞探しに熱中。4月以降も大学の病棟に戻るのを特別に1ヶ月延長して頂いて研究を継続、念願の色素幹細胞を発見。病棟勤務が始まり土日を中心に寸暇を見つけて研究しながら論文執筆。間もなく夫がポストンに留学決定。皮膚科の教授のご高配で私も留学することになり、同じポストンで色素細胞の研究ができるラボを見つけて留学。留学直前にZetocに投稿した幹細胞同定の論文のリバイスは難航し、一年半にわたり留学先でも実験を継続、そして念願の受理。留学先のボスの賛同を得て色素幹細胞研究を進展させ、白髪のメカニズムを解明。夫とともに日本国内の同じ大学あるいは近いところで帰国先を見つけようとするが難航。結局、別々の大学へ帰国。帰国先の北大で特任助教授の身分で臨床と研究の両立を試みるも、研究グループの結成をきっかけに研究に集中することに。しかし、皮膚科の臨床や病理も経験したお陰で新しくホククロやメラノーマのマウスモデルも出て、今年の春より金沢大学がん研究所教授に就任。

振り返ってみれば、紆余曲折の繰り返して右へ左へと転がりながらも、不思議なもので結局のところ、枝葉末節は相殺され、思い描いていた「研究医」なるものに近づいていくかと思っています。卒業後に遭遇する環境の中で、不都合と感じること、悪条件と感じることに遭遇した時こそ、何かを変えたり、決心や覚悟をするチャンスでもありました。方向性を確認し、前向きに熱中して一つ一つ形にしていくと、新しいチャンスが生まれてくるので、結局は悪条件が踏み台となりうることを学びました。そして、こうしてやってこれたのは、何よりも、家族や恩師をはじめとする周囲の暖かいサポートのお陰であり、滋賀医大でお世話になった先生方、諸先輩方のお陰でもあります。研究者として、まだまだこれからですが、湖医学会賞を頂いたことを励みに、生命や疾患の本質に迫る研究、そして、後進の育成に邁進していきたいと思えます。新研修制度が導入された影響で、この大学も大変な時期でもあります。滋賀医大らしさ“に惹かれて人が集まるような魅力的な大学であり続けてほしいと願っています。

「湖医学会賞」受賞者

- 第1回 埴田和史氏
井上慶郎氏
- 第2回 青木裕彦氏
茶野徳宏氏
- 第3回 小山恒男氏
猪木健氏
- 第4回 藤宮峯子
塩入俊樹氏

「月の都ピエンチャンから

～滋賀医大の皆さんへ～

岩本あづさ (医13期生) 国立国際医療センター国際医療協力局

(現JICAラオス国子どものための保健サービス強化プロジェクトチーフアドバイザー)



(前列右から3人目が筆者)

雨季でスコールが続くラオスの首都ピエンチャンで受賞を知り、とてもびっくりしました。私のようなアカデミックとは言いがたい人間がこんな賞をいただいているのかなあと困惑の思いもあります。ただこういう機会をいただいたことで、日本ではまだまだ情報が少ない国際保健医療協力について、特に学生の皆さんにお伝えできるといことは大変うれしいです。何故なら私自身が「将来は世界中の病気で苦しむ人達のために働きたい。でも何から始めればいいのか分からない」と考えていた学生の一人だったからです。推薦してくださった同級生の林寛子さんをはじめ同窓会関係者の方々に深くお礼申し上げます。

私は10才まで栃木県日光市の山の中で育ちました。読書や人形遊びが好きな静かで夢見がちな女の子だったと自分では記憶しています。小学校3年生の時に出会った1冊の本(「ヒマラヤの孤児マヤ」という児童図書で、1961年から結核対策に打ち込み昨年亡くなった「ネパールの赤ひげ」岩村昇医師の妻史子さんが書かれた本)に深い感銘を受け「こんな世界があるんだ、私も医者さんになって自分が必要とされる土地で病気に苦しむ人達のために働きたい」と考えるようになった。山深い日光の風景がまだ見ぬヒマラヤへの憧憬と重なったのかもしれない。しかしその後父の転勤で転居を繰り返すうち「数学が苦手な手先も器用ではない自分が、責任の重い医師という職業を選んではいけないのか」と思い悩む思春期を送りました。滋賀医大からやっと合格通知を受け取った時のうれしさは今もはっきりと覚えています。

希望一杯で入学しその後しばらくは勉強、と書きたいのですが現実は大違いで、相変わらず適性に悩み続け盛りだくさんの知識の吸収に挫けそうになっただけの学生でした。唯一救いだったのは「人に関わる要素を持っている」という事実で、それは「自分は人間と接することが大好きなんだ」と気づき始めた自分をわくわくさせてくれました。実力はともかく「医

療は自分の天職」「将来何科に進んでも、よく勉強して患者さんにとよく話すいい医者さんになりたい」と心から思っていました。医療問題研究会に入って膳所駅周辺のお年寄り家庭で入浴ボランティアをしたり、障害者の方達と竹生島に遠足に行ったりしたことも、現在までつながる貴重な「原体験」となりました。

日本の医療と国際協力をつなぐもの

卒業後小児科に進んだ私が国際保健に関わるようになった経緯は「湖都通信」51号に書いたので、ここでは日本での臨床経験と国際保健という仕事とのつながりについて記したいと思います。

日本のNIC(新生児集中治療室)で働いていた頃、私に求められた最大の役割はハイテク医療機器や高価な薬剤等あらゆる医療技術を駆使して小さな赤ちゃんを救命し元気に退院してもらうことでした。研修医としてスタートしてから最初の数年間はそのスキルを身につけることだけに懸命でしたが、次第にNICの外の世界にもたくさん課題があることに気づき始めました。出生直後に問題のある赤ちゃんが病院で過ごす期間はかなり「特別」で、その後家庭で成長して行く時間の方がずっと長く、いろいろなことが起こるのです。小さな赤ちゃんを家に連れて帰った後、日常の悩みを抱えて外来に来るおかあさん達にたくさん出会いました。退院した

滋賀医大時代を
ふりかえると

赤ちゃん達は、現在の日本社会が抱える問題の只中で家庭生活を始めます。少子化、小児科医不足、子育て不安、母子分離、虐待。それらの対策として、日本のNICや産科・小児科も近年、完全母子同室・母子同床や完全母乳育児、カンガルーケア、地域での子育て支援等、様々な試みを意識的に取り入れるようになりました。実はこれらはいずれも、特別な新しいことではなく、ラオスのような開発途上国ではごく当たり前に日常行われているものばかりです。「最先端と言われる医療がたどりつく最善のケアとは、こんなに基本的でシンプルなものだったのか、私達はいつの間にそれらを失ってしまったんだらう」と不思議に感じるようになってきました。

国際協力に本格的に携わる以前は、「日本での小児科・小児保健業務」と「開発途上国での国際小児保健」とを完全に分けて考えていましたが、徐々にその2つが自分の中で切り離せないつながりを持ち始めたのです。世界のどこにいても、私という一人の人間が医療者として患者や住民の方達に向き合う姿勢に変わりはない、またともに取り組んで行く課題の本質にも大きな違いはない、と現在では思っています。そう考えるようになって、「国際協力」という仕事に対する気持ちは少なくなりました。

国際保健という世界一
学生の皆さんへの
メッセージ

国際協力に関心があり
保健医療の道を選んだとい
う人は滋賀医大にもたくさ
んおられると思います。「国
際保健」は非常に間口が広
く、私が現在身をおくODA
(Official Development
Assistance: 政府開発援助)
だけでなく、WHOやUNICEF
等の国際機関、MSF(国境なき
医師団)をはじめとするNGO
等様々な進路がありますし、開
発途上国への医療者としての
関わり方も多種多様です。そ
中で私の限られた経験から大
切だと感じることを3つ挙げ
てみたいと思います。

1つ目は「主体的であり関
係性も大事にできること」で
す。私達は異文化の中に飛び
込んだ外部者という立場で、国
際保健のプロフェッショナルと
してその国の人達を支援して
状況を改善するという責任を
負っています。日本での常識が
ことごとく覆される環境の中
で、「それでも自分はこの国の
人達に何を伝えたいのか、どう
変わってもらいたいのか、そう
することによって何を改善で
きるのか」という自問自答を繰
り返す毎日です。言い換えれば
「これだけは譲れない」という
自分の信念と「この点は日本と
同じでなくても受け入れられ
る」という柔軟な判断とのバラ
ンス感覚が非常に重要です。
2つ目は「保健医療職を越え
る広い視野」です。日本では多く

の小児科医がそうであるよう
に夜間休日問わず病棟にこも
り外の世界に疎かった私です
が、現在は医療職以外の様々な
分野の人達と一緒に働く機会
が多く、それが国際協力の楽し
さの1つだと思っています。医
学部卒業という経歴が全く役
に立たない場面もあるのですが、
自分の中に保健医療者として
の軸を持ちつつその国の保健
状況を仲間とともに多様な視
点からとらえていくという姿勢
が大切だと感じています。

最後に「この選択が自分の人
生の中で納得できるか」。状況
は日々変わりますが、今の時
に日本を出てどこかの国で働
く自分を前向きに認められな
ければ国際協力は大変苦しい
経験になるだけでしょうし、逆
に自分で熟慮した上での選択
であれば、語学や厳しい生活環
境等の問題は乗り越えられる
と思っています。

ラオス語で「ピエン」は「街」、
「チャン」は「月」を意味するそ
うです。私は2007年10月ま
でここで小児保健業務に関わ
る予定です。また現在ラオスで
は看護学科1期生の野々村享
子さんが青年海外協力隊員と
して活躍中です。のんびり穏や
かな森の国ラオスが、湖医学会の
皆さんにとって少し身近に感
じられるようになったとしたら
私達にとってそれもまたうれし
いことです。あらためて「コープ
チャイ、ポップカンマイ(ラオス
語でありがとう、またお会いし
ましようの意味)」。



抱負を語る

下野(しもつけ)の国から

獨協医科大学精神神経医学教室 教授



下田和孝

(医3期生)

本年8月1日付けで獨協
医科大学精神神経医学教
室・教授を拝命いたしました
3期生(1983年卒)の
下田和孝です。2003年
1月に助教として獨協医
科大学に赴任することを決
心したときは、正直、「東の
文化」に馴染めるかと不安
でしたが、もう4年目になり
ました。

獨協医科大学病院は10
67床を有する栃木県の基
幹病院です。私が属している
精神科では精神疾患の治療
のみならず、地域や関連病
院からの重症の身体合併症
をもつ精神疾患患者さんも
積極的に受け入れています。
精神科外来は再来患者さん
が1ヶ月のべ約3000人、
新来患者さんが1ヶ月12
0人という忙しさですが、こ
ういった多数の患者さんを
治療している病院は、私が
行ってきたタイプの臨床研
究には最適の場と考えまし
た。2004年6月からは
パニック障害専門外来を開
設し、パニック障害患者さん

の専門治療にあたることも、
ゲノム薬理学的データを得ると
いう作業を行っています。既に、
選択的セロトニン取り込み阻
害薬であるパロキセチンでパニ
ック障害の治療を行なった場合、
パロキセチンの血中濃度が高い
ほど治療効果が低いことを報
告し、2005年度日本臨床精
神神経薬理学会賞を受賞しま
した。大学病院は総合病院とし
て専門性の高い医療を提供す
ることも重要な使命の1つであ
り、その中で「臨床的に有用で
ある研究結果をフィードバック
できることで、診療・研究・教育
に携わる若手医師のモチベーシ
ョンを揚げる事が出来る」と
確信できました。

栃木県の精神医療は100
年以上の歴史があります。精神
医療についてはまさに「官民一
体」ということを強く感じる土
地柄です。その一体感是非常に
頼もしく、のびのびと精神医療
が行えると感じています。獨協
医科大学精神神経医学教室は故宮
坂松衛・初代教授以来、地域に
根ざした精神医療を実践して
います。この伝統を継承すべく、
精神医学の発展と地域精神医
療への更なる貢献を目指したい
と思います。

交流懇談会を終えて



この企画は「湖医会」がサポートしています。
看護学科生の進路の参考になればと企画された「卒業生と在校生」の貴重な『交流の場』。
自分たちの経験が少しでも後輩達に役立てば・・・とたくさんの卒業生が参加してくれて、
“看護学科の輪”が広がっています。その輪の様子を紹介します！



来年は第3学年も参加を！
基礎看護学講座教授 佐伯行一
(第4学年担任)

本学で学び身に付けた知識・技術を社会に出て役立てたい。その活躍の場をどこに求めるかを判断することは、時代が学生気質がどの様に移り変わるうとも人生の重大事であることに変わりはないであろう。

看護学科には、第4学年の学生の就職活動を支援するとの趣旨から、卒業生にお願ひし大学にお出でいただき自らの就職活動、職場の現況などについて情報を提供していただく交流会なる年中行事がある。今年も、6月23日に学生食堂において開催され、第4学年担任として太田 教授と共に少しお手伝いさせていただいた。その感想を一言申し上げます。

当日来てくれた卒業生達、学生時代を知る私にとって、社会に出てそれだけの分野で一人立ちされることも立派になれるのかとその成長 ぶりに感心させられた。嬉しい限り

2つの願い

上間美穂 (2期生)

今回、始めて交流会に参加しました。私はまだ夢の途上で少し先輩として、もうすぐ社会人になる「可愛い後輩へ」今の時点で気づいたことを2つお話しさせて頂きました。

1つ目は失敗を恐れず、色々な事にチャレンジし、試行錯誤すること。沢山失敗して、解決すべきことから多くを学び、問題をポジティブにとらえる事ができるようになる。可能性のあることや、やりたいことは実際やってみて気づくこともあります。その原動力を医大で養って下さい。

2つ目は仲間を大切にしよう。学生時代を一緒に過ごした仲間、お互いの看護観や特性をよく知っていて、良いところも悪いところも理解しています。仕事が辛く、悩んでいた時、一番支えてくれました。医大の仲間や先生方のお陰で、私は今も働き続けています。

在校生のみなさんは交流会で、ロールモデルになる素敵な先輩に出会うことができましたでしょうか？同窓生の中には、夢を叶えた先輩がたくさんいます。来年は4回生のみなさんが、夢を叶え、湖医会を代表して後輩達に夢の舞台を語ってくださることを期待しております。

であった。来春巣立つ学生達も交流会で得た情報を活かしてより己に相応しい活躍の場を見つけて諸先輩の 後に続いてほしい。

ただ医療の世界に身を置こうとする人たちは生涯が学習であること、人の生き死にに直接対峙しなければならぬ医療の現場こそ本当の勉強の場であることを肝に銘じてほしい。一瞬の気の緩みも許されない。そこ、にこそ緊張と緩和の妙が味わえるのだ。

大変意義深い楽しい交流会であった。わざわざお出でいただいた10余名の卒業生諸君に『ありがとう』とお礼を申し上げたい。また、この会を資金面から援助いただいた「湖医会」ならびに「看護学科後援会」にお礼申し上げますと共に今後とも引き続き支援いただきますようお願い申し上げます。

最後に、開催時期からすると第3学年の学生にも参加されることを広く呼びかける必要があると強く感じた。次回開催時に考慮されるよう担当 当者に申し送りさせていただきます。

交流会に参加して

田中真由美 (4回生)

私は今回、交流懇談会の副実行委員長として準備をさせていただきました。

看護職と一言に言っても、看護師はもちろん、保健師、助産師、養護教諭、産業保健師などいろんな職種があります。また、勤務先である病院もたくさんあり、学生の私たちにとっては迷う場面が多くあります。そこで今回のように、いろいろな職場で活躍しておられる先輩方にお話を聞かせてもらえたことで、私たちとしては参考になる情報を得られ、とても良い機会になったと思います。今回参加した学生は、4回生がほとんどだったため、病院、病棟などの具体的な話もたくさん聞かせていただけてよかったです。

ご協力していただいた先輩方には、同じ大学の先輩ということで初対面の後輩にも、ざっくばらんに話していただいて、本当に嬉しく思っています。今後ぜひこの縦のつながりを大切にして交流懇談会が続いていくことを願っています。

今年も参加して良かった！

辻 沙央理 (4回生)

6月24日、今年で六回目となる交流会が開催されました。参加者一同、様々な分野で活躍されている卒業生の方々のお話を聞け、楽しく和やかな雰囲気、将来に目を向けた一時を過ごすことができました。

私は3年次にも参加したのですが、話を聞く視点が去年と違ったことに驚きました。3年次は進路を決めるための情報収集・実習・就職試験勉強・教材の選び方等、自分がどのような看護職になりたいのか、そのためにはどのようなことを準備・実行していけばいいのかを中心に聞き、就職試験が目前に迫った4年次では、願書の出し方や就職したい病院の就職試験、新人研修や国家試験など具体的な情報を聞かせて頂きました。今回は4回生以外の参加が少なく残念でしたが、次回は自分の夢を早い段階から見据えるために一人でも多くの参加があらばと願います。

最後になりましたが、交流会に参加くださった卒業生の方々、支え見守ってくださった先生方、そして交流会の開催のために協力頂いた看護事務局、湖医会、後援会の皆様に、交流会のメンバー一同、大変感謝しております。私たちの学生生活がたくさんの方々に支えられていることを実感し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。卒業まであと僅かですが、学業、進路、国家試験と何事においても悔いの残らないように、一日一日を大切に過ごしていきます。

2006年度 滋賀医科大学同窓会「湖医会」総会 主な資料

総会の主な資料として、(1)2005年度事業報告、(2)2006年度事業計画案、(3)2005年度会計報告、(4)2005年度特別会計
(5)2006年度予算案、(6)その他の主な検討課題 を掲載します。詳しい資料は「湖医会」ホームページをご覧ください。<http://www.koikai.or>

(1) 2005年度事業報告

1. 湖都通信の発行 49号～51号(例年通り3回/年)発行
2. 学生への対応
 - 1) 寄附を伴う活動
 - ・若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000・05.10.29
 - ・卒業生祝賀会を主催。寄附¥100,000・06.3.24
 - ・新入生歓迎委員会へ寄附¥100,000・06.4
 - ・看護学科卒業生と学生の交流懇談会の援助¥50,000・06.6
 - 2) その他の活動
 - ・奨学金制度(『湖医会奨学金』と『藤原よしみ奨学金』)・後述
 - ・新入生オリエンテーションで同窓会の説明をした・茶野副会長
 - ・特別な理由による就学困難な準会員を補助した・「湖医会」が窓口となり寄附を募った『障害者を支援する会』(前、『荻田君を支える会』)より聴覚障害のある学生のスピーチプロセッサ購入に役立てられた(¥1,126,900)
 - ・関東支部会参加への案内
3. 大学への対応
 - 1) 寄附
 - ・滋賀医学国際協力会へ寄附¥100,000・06.3
 - 2) 会議に参加
 - ・関連病院長会議・野村副会長が出席
 - ・滋賀医学国際協力会・相見副会長が出席
 - ・経営協議会・渡辺会長が出席
 - ・学外有識者会議・金子副会長が出席
 - 3) 大学幹部との交流
 - ・学長と意見交換・金子・茶野・相見副会長・06.8.30
 - 4) 行事に参列
 - ・卒業式・06.3.24
 - ・入学式・06.4.4
 - 5) 協力
 - ・医大ニュース、滋賀医学国際協力会ニュースの発送(費用は湖医会負担)
 - ・要望のある各部署へタックシール等の提供・5件
4. 支部会への援助・関東支部会に¥100,000の援助
5. 湖医会カードへの援助・カード年会費75人分負担 ¥98,400
6. 同期会の開催
 - ・卒後20年同期会・医5期生(05.9.10、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後10年同期会・医15期生(06.2.18、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後5年同期会・看4期生はすでにクラス会を行ったとの申し出があった
7. 湖医会賞
 - 1) 第5回湖医会賞授与式・講演会・05.10.29 若鮎祭と共催
 - 2) 第6回湖医会賞受賞者決定・06.7
8. 奨学金
 - 1) 会計報告を湖都通信49号に掲載した
 - 2) 「湖医会奨学金」
 - ・05年度奨学生の追加募集(1名枠)を9月末から行い、1名決定した。
 - 3) 「藤原よしみ奨学金」
 - ・06年度、2名が決定した
9. 一般VISAカードからの会費引き落としへの勧誘
 - ・同期会の時に引落同意書を作成して案内したが効果がなかった
10. 会費徴収の対策を講じる・具体案を検討中
11. 学内の保育施設設置の検討を大学、生協と一緒に進めてきたが、今年度内に建設されることになった。

12. その他

(2) 2006年度事業計画(案)

1. 湖都通信の発行 52号～54号
2. 学生への対応
 - 1) 寄附を伴う活動
 - ・若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000
 - ・卒業生祝賀会を主催。寄附¥100,000
 - ・新入生歓迎委員会へ寄附¥100,000
 - ・看護学科卒業生と学生の交流懇談会の援助¥50,000
 - 2) その他の活動
 - ・奨学金制度(『湖医会奨学金』と『藤原よしみ奨学金』)
 - ・新入生オリエンテーションで同窓会の説明をする
 - ・特別な理由による就学困難な準会員を補助する
 - ・関東支部会参加への案内
3. 大学への対応
 - 1) 寄附
 - ・滋賀医学国際協力会へ寄附¥100,000
 - 2) 会議に参加
 - ・関連病院長会議
 - ・滋賀医学国際協力会
 - ・経営協議会
 - ・学外有識者会議
 - 4) 行事に参列
 - ・卒業式
 - ・入学式
 - 5) 協力
 - ・滋賀医学国際協力会ニュース等の発送
 - ・要望のある各部署へタックシール等の提供・所定の手続きを踏んでもらう
4. 支部会への援助・関東支部会に¥100,000の援助
5. 湖医会カードへの援助・カード年会費
6. 同期会の開催
 - ・卒後20年同期会・医6期生(07.2.10、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後10年同期会・医16期生(07.2.10、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後5年同期会・看5期生(07.2 頃) ¥50,000の補助
7. 湖医会賞
 - 1) 06年度湖医会賞授与式・講演会・06.10.28 若鮎祭と共催
 - 2) 07年度湖医会賞受賞者決定・07.7
8. 奨学金
 - 1) 「湖医会奨学金」
 - ・06年度奨学生の追加募集を9月末から行う(4名枠が残っている)
 - 2) 07年度「湖医会奨学金」・「藤原よしみ奨学金」奨学生を募集・決定
 - 3) 要項の見直しを図る
9. 一般VISAカードからの会費引き落としへの勧誘・新しく行う「会員へのサービス」事業でサービスの優遇を図ることで希望者をアップさせる
10. 会費徴収の対策を講じる・新しく行う「会員へのサービス」事業で会費完納者と未納者とのサービスの差を付けることにより会費納入率のアップを図る
11. 保育施設の情報を提供・湖都通信や「会員サービス」メールで
12. 病院等からのメール広告を募集(有料)など新たな事業を検討する
13. その他

総会 日時:10月28日(土)・16:00~17:00 / 場所: 基礎講義実習棟2階B講義室

(5)2006年度予算(案)

(3)2005年度会計報告

(6)その他の主な検討課題

- 1.収益事業の新規開始について
病院等からの会員に通知する求人募集等を有料でうけつける。
- 2.会則の主な改正
主な改正点は次の通り
 - 1)正会員に滋賀医科大学医学部学生・滋賀医科大学大学院生を加える。
 - 2)常任幹事を役員に加える。
 - 3)常任幹事会を企画・執行機関として、より密度の濃い・よりスピーディーな運営できるようにする。
 - 4)特定の属性を有する会員の集まりとして、部会を設置できるようにする。
 - 5)会費を見直し、入会金と看護学科卒業生の会費を減額する。

(4)2005年度特別会計報告

| 【会費納入状況】 | | | |
|----------|-----------|-------|--|
| 医学科: | 1期 ~ 10期 | 43.1% | |
| | 11期 ~ 23期 | 20.2% | |
| | 24期 ~ 26期 | 98.1% | |
| 看護学科: | 1期 ~ 7期 | 4.4% | |
| | 8期 ~ 9期 | 81.5% | |

※看護学科は会費減額も起案されております。



奨学会計報告
(2006.8.31)

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|--------------|-----------|--------------|-----------|
| 前年度繰越 | 3,744,358 | 振込料金 | 350 |
| 寄付 | 5,000 | 「湖医会」奨学金貸与 | 360,420 |
| 医5期生同期会から寄付 | 163,256 | 「湖医会」奨学金貸与 | 240,140 |
| 医15期生同期会から寄付 | 150,000 | 「藤原よしみ」奨学金貸与 | 300,000 |
| 「湖医会」奨学金返還 | 432,000 | 残高証明 | 500 |
| | | 次年度繰越 | 3,593,204 |
| 収入計 | 4,494,614 | 支出計 | 4,494,614 |

若鮎祭

第32回

『来て、見て、笑って、 あんたが主役』

秋晴れの候、OB・OGの皆様ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。我々、学生一同は、先輩方が築いてこられた滋賀医大の伝統を受け継ぎ、素晴らしい医師・看護師になるべく日々勉学に動んでおります。

さて、今年も若鮎祭の季節が近づいて参りました。今年は『来て、見て、笑って、あんたが主役』をテーマに掲げました。学園祭に来場くださる皆様にいるいな体験をしていただき、楽しんでいただくというのが目的です。地域に根ざした大学のお祭りとして、より一層親しまれるようになれば幸いです。

また、今年も滋賀医大同窓会『湖医会』と共催で、第5回『湖医会賞』を受賞されました岩本あづさ先生と西村栄美先生による受賞記念講演会を開催いたします。先輩方のご活躍の報告を拝聴できる機会として楽しみにしております。

最後になりましたが、若鮎祭は先輩方のご理解・ご協力なくしては成功いたしません。今年も多大な御寄付をいただいております。ありがとうございます。先輩方のご期待に沿えるよう10月28日、29日の本番まで実行委員一同精一杯準備に励んでまいりますので、ご多忙とは存じ上げますが多くのOB・OGの皆様のご来場を心よりお待ちしております。



若鮎祭実行委員長 倉橋幸也

第5回『湖医会賞』受賞記念講演会

10・28(土) 場所:基礎講義実習棟 2階 B講義室

『湖医会賞』とは・・・研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護福祉その他領域で優れた実践を行い、医学・福祉の向上に貢献した『湖医会』会員に贈られるものです。当日は授賞式に続いて、受賞者による記念講演が行われます。同窓生多数のご参加をお待ちしております。

『湖医会賞』授賞式 13:30～

『湖医会賞』受賞記念講演

14:00～ 『臨床・福祉領域』・『その他の領域』 岩本あづさ氏(医13期生、国立国際医療センター国際医療協力局)

現JICAラオス国子どもための保健サービス強化プロジェクトチーフアドバイザー)

演題:『滋賀からラオスへー国際小児保健の世界』

14:45～ 『研究領域』

西村栄美氏(医14期生、金沢大学がん研究所 幹細胞医学研究分野教授)

演題:『幹細胞とニッチを探して』

メイン企画

☆展示☆ 場所:体育館 時間:10・28(土)/10・29(日)10:00～17:00

『あなたはメタボリックシンドローム??』

～気づかずにいるとこわい生活習慣病!健康的に暮らしませんか?』

『ゆがみすっきり～見つめよう!!自分のカラダを!!～』

『覗いてみたい病院の中～滋賀医科大学附属病院の紹介～』

☆体験・講習会☆ 場所:体育館 10・28(土)/10・29(日)

『BLS・AED講習会』第一部:11:00～12:00 第二部:15:00～16:00(各先着6名)

『妊婦体験・車椅子体験』10:00～11:00、13:00～15:00

☆講演会☆ 場所:基礎講義実習棟 2階 B講義室

10/29(日)13:00～14:30

中島義道氏『私が死ぬということ ～生と死にむきあいます～』

僕もいるかも!



ミニ動物園もあります

ステージ企画

☆10/28(土)☆

10:00～10:30 開会式

10:30～12:00 KoA-KING of ATHLETES-

12:00～12:30 模擬店CM

12:30～17:00 軽音ライブ、平井喜美ライブ(順番未定)

17:00～18:00 Mr. & Miss. 滋賀医

中間発表

18:00～20:00 きんぐおぶえんたーていなーず

☆10/29(日)☆

10:00～10:30 バルーンアート

10:30～11:00 アカペラライブ

11:00～11:30 身内自慢コンテストin滋賀医大

11:30～12:00 模擬店CM

12:00～13:30 クイズP様(予想クイズ)

14:30～15:30 みんなdeピンゴ・大道芸

15:30～17:30 ゲストライブ(HONEY SAC, PYLON)

18:00～19:00 チュートリアル・笑い飯・とろサーモン

19:00～ フィナーレ

「メルアド登録でお得な情報をGet!」

1面でもご紹介しました通り、今後の「湖医会」からの様々な情報提供は、Eメール配信が主になっていきます。ぜひ、今メールアドレスを登録して、今後の様々な情報をゲットしてください。登録希望の方は、下記メールアドレスに「お名前」「期生」をお送りください。「湖医会」から登録確認メールを返信させていただきます。

宛先: koikai@koikai.org



卒業生・・・今度は

勤務中に会員を呼びだしたり、あるいは携帯電話・PHSに直接電話して

(・・・どうして番号を知っているのか??)

次のようなことを言います。

「君の先輩だが同窓会の事務局に住所を連絡していないだろう
僕が連絡しておくから、今すぐ教えるように!」
場合によってはとても横柄に言うそうです。

「湖医会」では

個人情報を電話で問い合わせることはありません!

住所変更等の連絡はFAX・メール・郵便で行っています

もし、あなたに電話がかかってきたら

- ・こちらからかけ直す
- ・幹事に知り合いがいるから直接知らせる
- ・この前事務局に連絡した

などと言って電話を切り、おかしいと思われたら事務局にお訊ねください。

きつい口調で相手を怒らせるのは得策ではありません。
それ以後何度も電話をかけてきて暴言を吐く輩もいるようです。

「湖医会」もたいへん迷惑を被っています。

つきましてはより一層、安全で正確な個人情報の管理のために
会員のみなさまの連絡先を確認させていただこうと思います。
同封の『返信用紙』をご利用いただき、連絡先をお知らせくださいますようお願いいたします

お知らせ

「湖医会」カード(VISA)からの同窓会年会費は
10月16日に自動引き落としとなります。

ご案内

同期会のお知らせ

★卒後20年は医学科6期生

★卒後10年は医学科16期生

両期とも2007年2月10日(土)開催

★卒後5年看護学科5期生

2007年2月に開催予定

若鮎祭模擬店

おとくチケット



10月28日(土)・29日(日)に行われる、
『湖医会賞』授与式・講演会や総会にご参加いただいた会員に、若鮎祭の
模擬店で使える“おとくチケット”を
会場でお渡しします。

ご家族連れでお楽しみください。

2006年度 滋賀医科大学同窓会 保健師部会交流会のお知らせ

初秋の頃、保健師の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様は日々それぞれの現場でご活躍されていることと思います。近況報告を含め、日頃は多忙でなかなか会うことのできない保健師仲間との交流会を今年度も開催します。

日時:平成18年12月9日(土)

受付:18時～ 開宴:18時15分

場所:グランヴェルジュ七条倶楽部

予算:お一人様 5,000円

総会の 委任状はメール で! ... e-mail: koikai@koikai.org

ご協賛
ありがとうございます

杏林製薬株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社 (順不同)